

# しんきん海外ソブリン債セレクション

## 欧州ソブリン債ポートフォリオ/米国ソブリン債ポートフォリオ/ 欧米ソブリン債ポートフォリオ

追加型投信/海外/債券

### 交付運用報告書

第81期(決算日2023年8月15日)

第82期(決算日2023年11月15日)

作成対象期間(2023年5月16日~2023年11月15日)

欧州ソブリン債ポートフォリオ

第82期末(2023年11月15日)	
基準価額	9,231円
純資産総額	247百万円
第81期~第82期	
騰落率	9.2%
分配金(税込み)合計	90円

欧米ソブリン債ポートフォリオ

第82期末(2023年11月15日)	
基準価額	9,942円
純資産総額	525百万円
第81期~第82期	
騰落率	7.8%
分配金(税込み)合計	90円

米国ソブリン債ポートフォリオ

第82期末(2023年11月15日)	
基準価額	10,919円
純資産総額	334百万円
第81期~第82期	
騰落率	6.2%
分配金(税込み)合計	90円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

(注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しています。

#### 受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てに預かり厚く御礼申し上げます。

さて、ご購入いただいております「しんきん海外ソブリン債セレクション」は2023年11月15日に第82期の決算を行いました。

当ファンドは、ユーロ参加国の国債、米国の国債、政府機関債および国際機関債に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長を目指して運用を行っています。

ここに、第81期から第82期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しています。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めています。弊社ホームページの「ファンド各種資料」において運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される場合は、販売会社までお問い合わせください。

 しんきんアセットマネジメント投信株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号

<https://www.skam.co.jp>

<コールセンター>  0120-781812

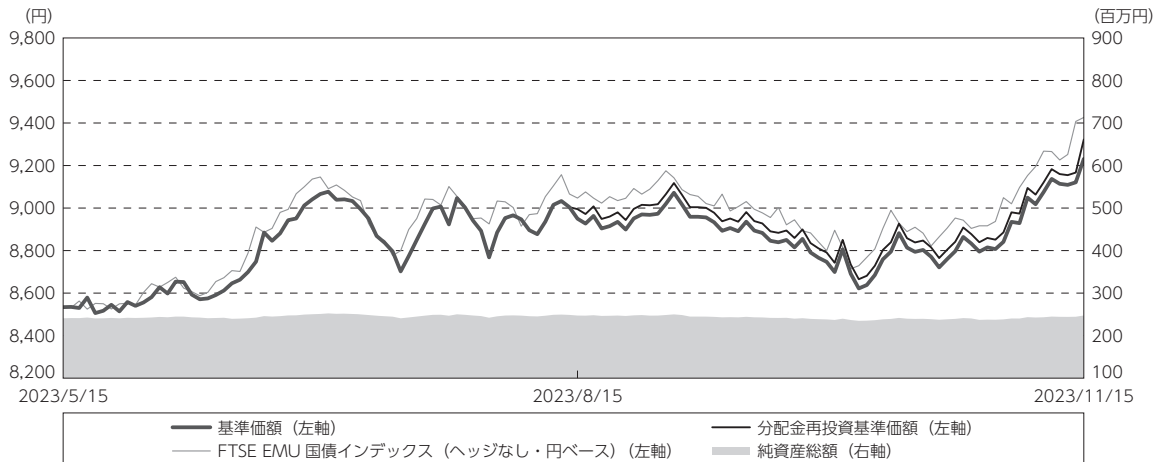
(土日、休日を除く) 携帯電話からは03-5524-8181  
9:00~17:00

## 欧州ソブリン債ポートフォリオ

### 運用経過

#### 作成期間中の基準価額等の推移

(2023年5月16日～2023年11月15日)



第81期首：8,534円

第82期末：9,231円 (既払分配金(税込み)：90円)

騰落率：9.2% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびFTSE EMU国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)は、作成期首(2023年5月15日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。
- (注) ベンチマークは、FTSE EMU国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)です。詳細は5ページをご参照ください。

## ○基準価額の主な変動要因

当ポートフォリオは、FTSE EMU 国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）をベンチマークとし、親投資信託である「しんきん欧州ソブリン債マザーファンド」を通じて、主として欧州経済通貨同盟（EMU）参加国の国債、政府機関債および国際機関債に投資しています。

当作成期における基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

## 基準価額の変動要因

第80期末基準価額		8,534円	
要因	外国債券	キャピタル	△161円
		インカム	99円
	為替	901円	
	小計	839円	
分配金		△90円	
その他変動要因（信託報酬含む）		△52円	
第82期末基準価額		9,231円	

※要因分析の数値は概算値です。実際の数値と異なる可能性があります。傾向を知るための参考としてご覧ください。

※キャピタルとは金利変動等による債券価格の上下動に伴う売買損益（評価損益含む）、インカムとは利息等による収益です。

## &lt;上昇要因&gt;

- ・欧州中央銀行（ECB）がインフレ高進を抑制するために、積極的な金融引締めを進めたことで、日欧金利差の拡大が意識され、ユーロが対円で上昇したこと。

## &lt;下落要因&gt;

- ・欧州のインフレ高進を抑制するため、ECBが積極的な金融引締めを行ってきたことから、欧州主要国の金利が上昇し、欧州債券価格が下落したこと。

## 1万口当たりの費用明細

(2023年5月16日～2023年11月15日)

項 目	第81期～第82期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	47	0.525	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	(20)	(0.221)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	(24)	(0.277)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 2 )	(0.028)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	2	0.025	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	( 2 )	(0.021)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
( 監 査 費 用 )	( 0 )	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( そ の 他 )	( 0 )	(0.001)	信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	49	0.550	
作成期間の平均基準価額は、8,860円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等の掛かるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

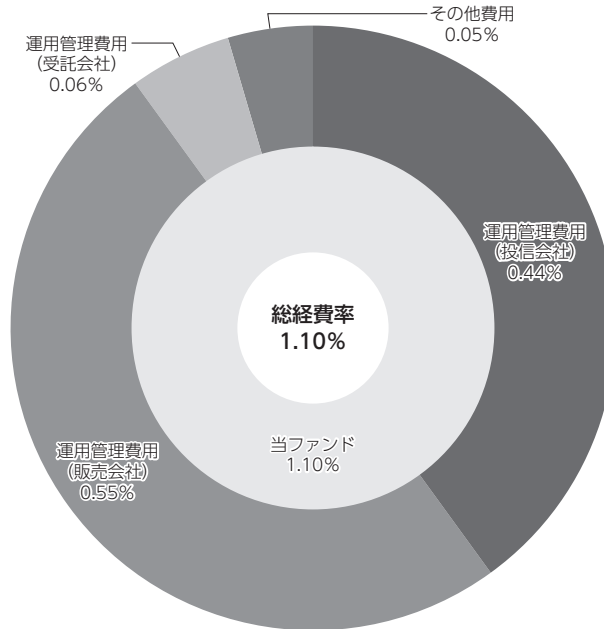
(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

## (参考情報)

## ○総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.10%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

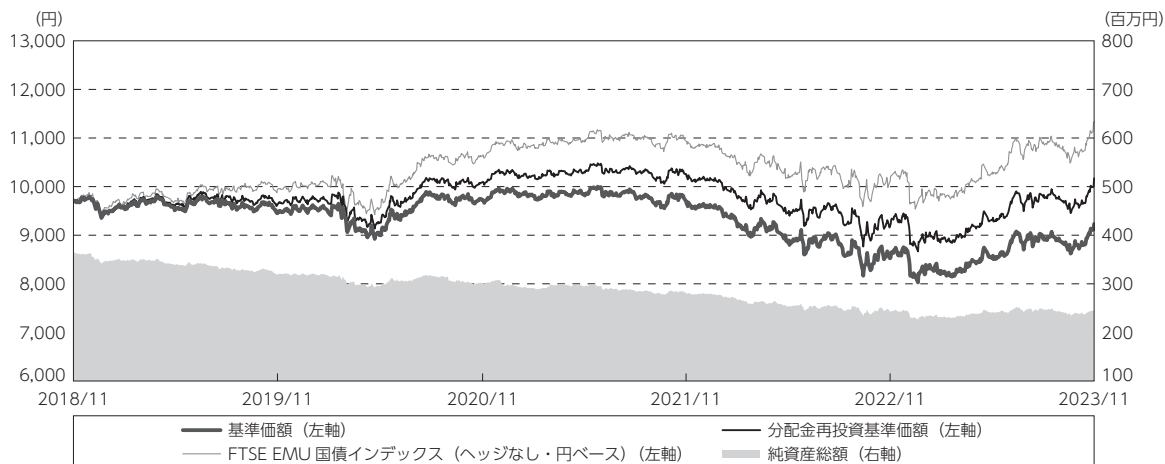
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2018年11月15日～2023年11月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびFTSE EMU国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)は、2018年11月15日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

	2018年11月15日 決算日	2019年11月15日 決算日	2020年11月16日 決算日	2021年11月15日 決算日	2022年11月15日 決算日	2023年11月15日 決算日
基準価額 (円)	9,686	9,450	9,720	9,699	8,524	9,231
期間分配金合計(税込み) (円)	—	180	180	180	180	180
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 0.6	4.8	1.6	△ 10.3	10.5
FTSE EMU国債インデックス (ヘッジなし・円ベース)騰落率 (%)	—	2.7	7.0	2.8	△ 7.7	12.3
純資産総額 (百万円)	363	318	301	281	244	247

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。
- (注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しています。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) ベンチマークは、FTSE EMU国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)です。

## ●ベンチマークに関して

- ※「FTSE EMU国債インデックス」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスで、EMU加盟国の国債で構成されています。
- ※「FTSE EMU国債インデックス」は「FTSE世界国債インデックス」のサブ・インデックスです。
- ※「FTSE世界国債インデックス」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。
- ※上記指数は、FTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。同社は、当ファンドの運用成績などに関する一切の責任を負いません。

**投資環境**

(2023年5月16日～2023年11月15日)

**(欧州債券市況)**

当作成期初以降、ECB政策理事会において政策金利の利上げが連続して決定される中、金利は上昇基調で推移しました。ただ、ドイツをはじめとする欧州各国の経済指標が落ち込み、欧州の景況への懸念が強まったことや、中国不動産市場および中国経済に対する警戒が強まったこと、欧米のインフレ鈍化傾向が続いたことなどを背景に、欧州国債金利は揉み合いながら緩やかに上昇する形となりました。一方で、当作成期末にかけては、ユーロ圏の2023年10月の購買担当者景気指数(PMI)の軟調な結果等を背景として、欧州経済の減速が市場で意識されたことを受けて、欧州国債金利は低下しました。

**(為替市況：ユーロ円市場)**

当作成期初から2023年6月末にかけては、ECBが金融引締めを積極的に進めていたことや、日銀の総裁交代後も日本の金融政策が直ちには変更されないとの理解が市場で広がったことから、大きくユーロ高円安が進行しました。7月以降は、ドイツの経済指標が大きな落ち込みを示したことや、欧州圏のインフレ率の鈍化を背景にECBが利上げペースを緩めるとの観測が広がると、ユーロ円は上値が抑えられる展開となりました。一方で、当作成期末にかけては、ECBのラガルド総裁が当面の利下げを排除する旨の発言を行ったこと等を受けて、再びユーロ高が進みました。

**当ファンドのポートフォリオ**

(2023年5月16日～2023年11月15日)

当ポートフォリオは、親投資信託である「しんきん欧州ソブリン債マザーファンド」の受益証券への投資を通じ、外貨建資産の組入比率が高位となるように調整しています。

**●しんきん欧州ソブリン債マザーファンド**

欧州のソブリン債の組入比率を高位に保ち、FTSE EMU国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）をベンチマークとして、ポートフォリオを構築しています。

国別配分については、ドイツ、フランス、スペイン、オランダ、オーストリアおよびベルギーの各国債でポートフォリオを構築しています。当作成期末の2023年11月15日時点におけるファンドの修正デュレーション（金利感応度）は7.12年、時価最終利回りは3.10%となっています。

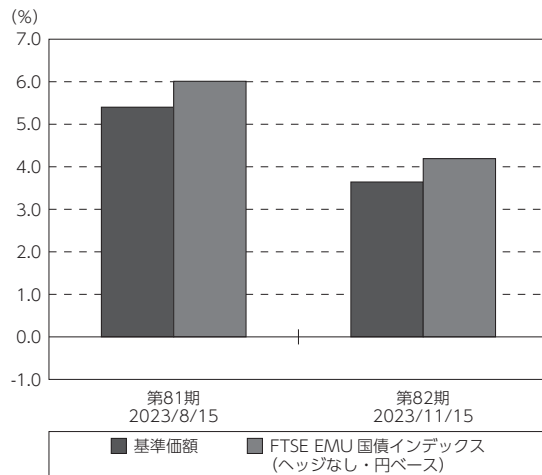
## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2023年5月16日～2023年11月15日)

当作成期の基準価額の騰落率(分配金再投資ベース)は+9.2%となり、一方で同期間のベンチマークの騰落率は+10.5%となりました。

この差には、ファンドとベンチマークにおける債券組入銘柄の違い、為替の評価タイミングのずれや、追加設定・解約による要因等が含まれています。

基準価額とベンチマークの対比 (期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) ベンチマークは、FTSE EMU国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)です。詳細は5ページをご参照ください。

## 分配金

(2023年5月16日～2023年11月15日)

収益分配金については、各期とも経費控除後の配当等収益や基準価額水準等を勘案して、第81期、第82期は、1万口当たり45円(税込み)としました。

なお、収益分配に充てなかった部分については、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき運用を行います。

## 分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項目	第81期	第82期
	2023年5月16日～ 2023年8月15日	2023年8月16日～ 2023年11月15日
当期分配金	45	45
(対基準価額比率)	0.500%	0.485%
当期の収益	45	45
当期の収益以外	—	—
翌期繰越分配対象額	2,874	2,877

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。



## 今後の運用方針

引き続き、当ポートフォリオについては、今後も親投資信託である「しんきん欧州ソブリン債マザーファンド」の受益証券への投資を通じ、外貨建資産の組入比率が高位となるように調整していきます。

### ●しんきん欧州ソブリン債マザーファンド

欧州のソブリン債の組入比率を高位に保ち、FTSE EMU 国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）をベンチマークとしてポートフォリオを構築していきます。投資国やウェイトについては、マクロ経済分析等のファンダメンタル分析、債券市場分析および格付動向などを勘案して決定します。

## お知らせ

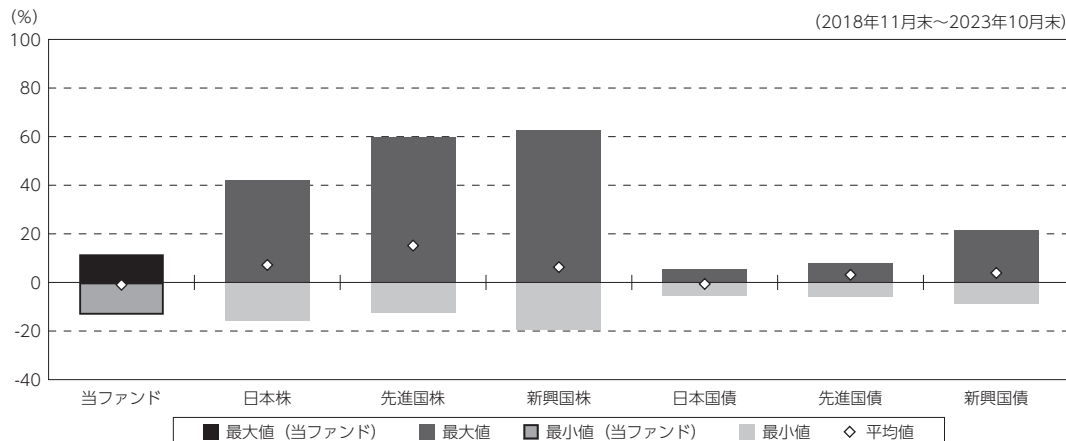
新NISA制度における成長投資枠の対象商品とするため、デリバティブ取引を行う目的について投資信託約款に所要の変更を行いました。(2023年11月11日実施)

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	安定した収益の確保および投資信託財産の着実な成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	欧州ソブリン債 ポートフォリオ	「しんきん欧州ソブリン債マザーファンド」の受益証券を主要投資対象とします。
	しんきん欧州ソブリン債 マザーファンド	EMU（欧州経済通貨同盟）参加国の国債、政府機関債および国際機関債を主要投資対象とします。
運用方法	ユーロ参加国の国債、政府機関債および国際機関債に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長を目指して運用を行っています。	
分配方針	分配対象額は、経費等控除後の繰越分を含めた利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）等の全額とし、基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合は、分配を行わないこともあります。	

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	11.6	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	21.5
最小値	△ 13.3	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	△ 1.0	7.2	15.2	6.3	△ 0.6	3.1	3.9

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年11月から2023年10月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、34ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2023年11月15日現在)

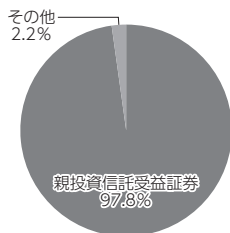
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第82期末
しんきん欧州ソブリン債マザーファンド	97.8%
組入銘柄数	1銘柄

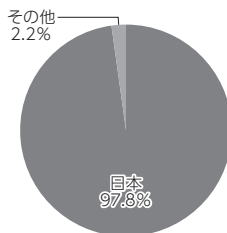
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

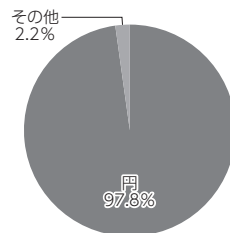
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

(注) その他は、日本円による現金、コール・ローン等を示します。

## 純資産等

項目	第81期末	第82期末
	2023年8月15日	2023年11月15日
純資産総額	247,221,334円	247,359,052円
受益権総口数	276,226,557口	267,970,104口
1万口当たり基準価額	8,950円	9,231円

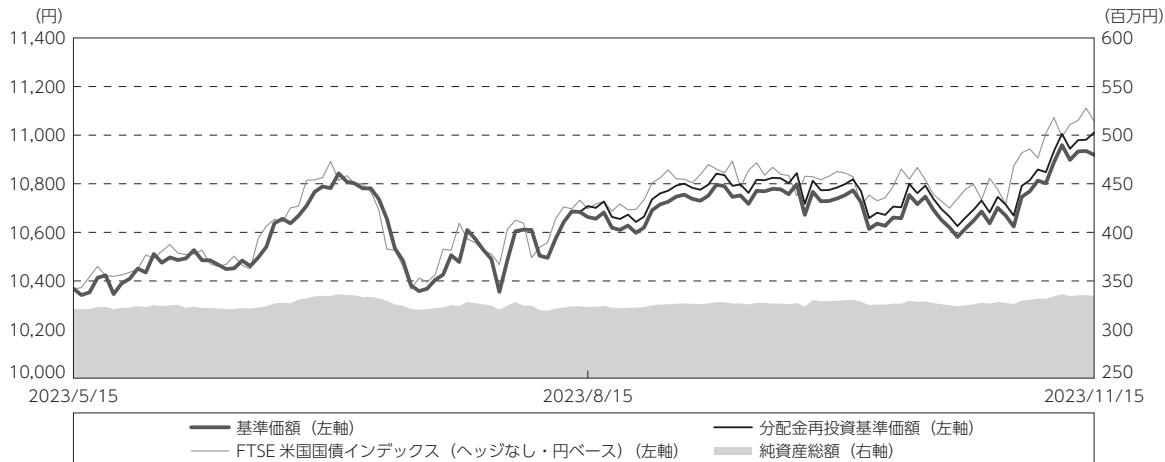
(注) 当作成期間(第81期~第82期)中における追加設定元本額は3,737,295円、同解約元本額は17,932,809円です。

## 米国ソブリン債ポートフォリオ

## 運用経過

## 作成期間中の基準価額等の推移

(2023年5月16日～2023年11月15日)



第81期首：10,368円

第82期末：10,919円 (既払分配金(税込み)：90円)

騰落率：6.2% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびFTSE米国国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)は、作成期首(2023年5月15日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。
- (注) ベンチマークは、FTSE米国国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)です。詳細は15ページをご参照ください。

## ○基準価額の主な変動要因

当ポートフォリオは、FTSE米国国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）をベンチマークとし、親投資信託である「しんきん米国ソブリン債マザーファンド」を通じて、主として米国の国債、政府機関債および国際機関債に投資しています。

当作成期における基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

## 基準価額の変動要因

第80期末基準価額		10,368円	
要因	外国債券	キャピタル	△501円
		インカム	140円
	為替	1,063円	
	小計	702円	
分配金		△90円	
その他変動要因（信託報酬含む）		△61円	
第82期末基準価額		10,919円	

※要因分析の数値は概算値です。実際の数値と異なる可能性があります。傾向を知るための参考としてご覧ください。

※キャピタルとは金利変動等による債券価格の上下動に伴う売買損益（評価損益含む）、インカムとは利息等による収益です。

## &lt;上昇要因&gt;

- ・米連邦準備制度理事会（F R B）が積極的な金融引締めを続け、日米金利差が拡大したことから、米ドルが対円で上昇したこと。

## &lt;下落要因&gt;

- ・F R Bによって積極的な利上げが行われ、長期にわたり高金利を維持するとの観測が市場で強まったことや、米国国債の格下げや増発による需給環境の悪化が懸念されたことなどから、米国債金利が上昇し、米国債券価格が下落したこと。

## 1万口当たりの費用明細

(2023年5月16日～2023年11月15日)

項 目	第81期～第82期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	56	0.525	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	(24)	(0.221)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	(29)	(0.276)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 3)	(0.028)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	2	0.015	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	( 1)	(0.012)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
( 監 査 費 用 )	( 0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( そ の 他 )	( 0)	(0.001)	信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	58	0.540	
作成期間の平均基準価額は、10,654円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等の掛かるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

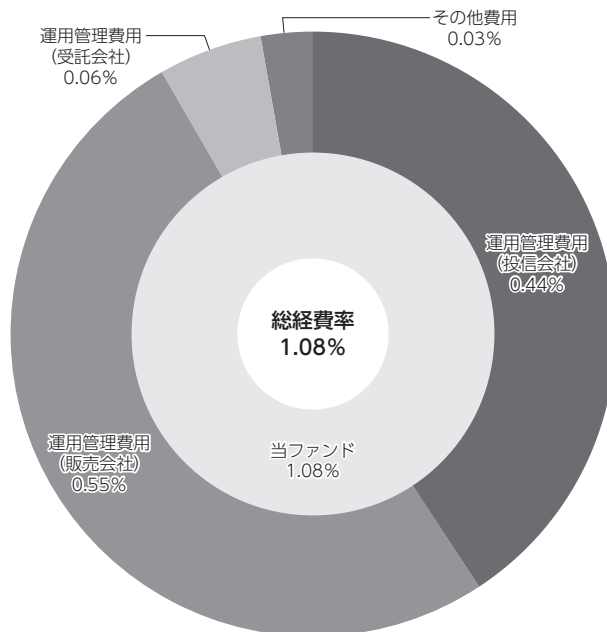
(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

## (参考情報)

## ○総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.08%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

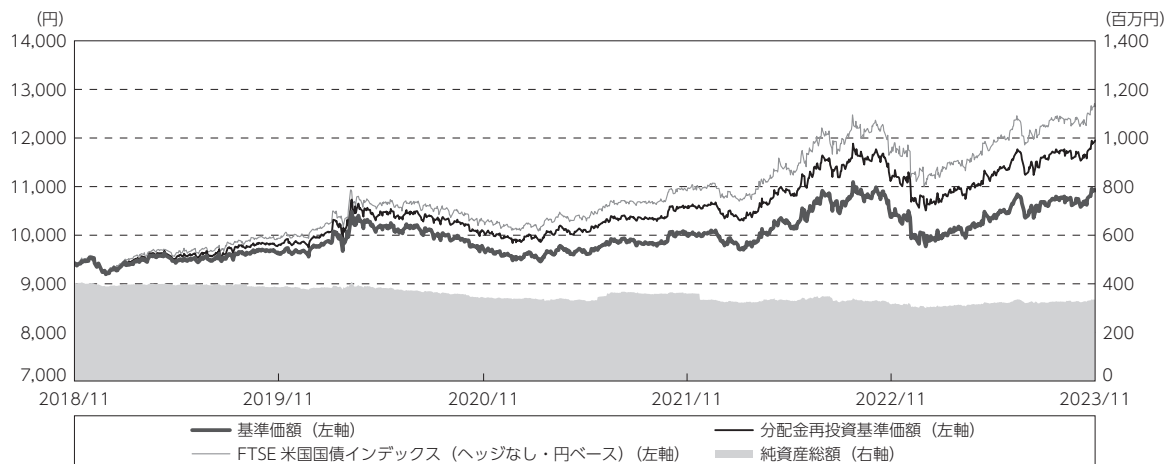
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2018年11月15日～2023年11月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。  
 (注) 分配金再投資基準価額およびFTSE米国国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)は、2018年11月15日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

	2018年11月15日 決算日	2019年11月15日 決算日	2020年11月16日 決算日	2021年11月15日 決算日	2022年11月15日 決算日	2023年11月15日 決算日
基準価額 (円)	9,426	9,617	9,710	9,995	10,379	10,919
期間分配金合計(税込み) (円)	—	180	180	180	180	180
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	4.0	2.8	4.9	5.7	7.0
FTSE米国国債インデックス (ヘッジなし・円ベース)騰落率 (%)	—	5.4	3.5	6.1	7.1	8.2
純資産総額 (百万円)	403	385	343	359	316	334

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。  
 (注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しています。  
 (注) 騰落率は1年前の決算日当日との比較です。  
 (注) ベンチマークは、FTSE米国国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)です。

## ●ベンチマークに関して

- ※「FTSE米国国債インデックス」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスで、米国の国債で構成されています。  
 ※「FTSE米国国債インデックス」は「FTSE世界国債インデックス」のサブ・インデックスです。  
 ※「FTSE世界国債インデックス」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。  
 ※上記指数は、FTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。同社は、当ファンドの運用成績などに関する一切の責任を負いません。



**投資環境**

(2023年5月16日～2023年11月15日)

**(米国国債市況)**

当作成期初は、米消費者物価指数（C P I）などがインフレ高進の鈍化を示したものの、米国経済の堅調さを示す経済指標が相次いだことや、F R B高官によるタカ派発言が散見されたことから、追加利上げ観測が広がり、米国債金利は上昇しました。その後も米国経済の底堅さを受けた米国債金利の上昇が続く中、2023年8月には米国国債の格下げや増発が公表され、需給の悪化懸念が広がると米国債金利はさらに上昇しました。また、9月と10月においても、F R Bが高水準の政策金利を長期間維持するとの見方が市場で広がったことで、米国債金利は上昇基調で推移しました。一方で、11月初めに行われた米連邦公開市場委員会（F O M C）におけるパウエルF R B議長が発言が利上げ終了を示唆するものと市場で受け止められ、当作成期末にかけて米国債金利は低下しました。

**(為替市況：ドル円市場)**

当作成期初から2023年6月末にかけては、米国の金融引締めや、日銀による金融緩和継続の姿勢が意識され、ドル高円安基調で推移しました。しかし、7月に内田日銀副総裁によるインタビュー記事が注目され、政策修正が意識されると、一時的に円が買われる場面もありました。8月には日銀によって政策変更が行われましたが、さらなる金融引締めのタイミングが遠いであろうことが市場で意識されたことや、米国経済の底堅さを背景とした米国債金利の上昇を受けて、8月以降は再び円安基調での推移となりました。

**当ファンドのポートフォリオ**

(2023年5月16日～2023年11月15日)

当ポートフォリオは、親投資信託である「しんきん米国ソブリン債マザーファンド」の受益証券への投資を通じ、外貨建資産の組入比率が高位となるように調整しています。

**●しんきん米国ソブリン債マザーファンド**

米国のソブリン債の組入比率を高位に保ち、FTSE米国国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）をベンチマークとして、ポートフォリオを構築しています。ベンチマークに対する修正デュレーション（金利感応度）は、中立を基本としています。

当作成期末の2023年11月15日時点におけるファンドの修正デュレーションは5.87年、時価最終利回りは4.80%となっています。また、ファンドの利回り向上を図るため、米国国債のほか、国際復興開発銀行（世界銀行：I B R D）、米州開発銀行（I A D B）、アジア開発銀行（A D B）発行の債券を組み入れています。

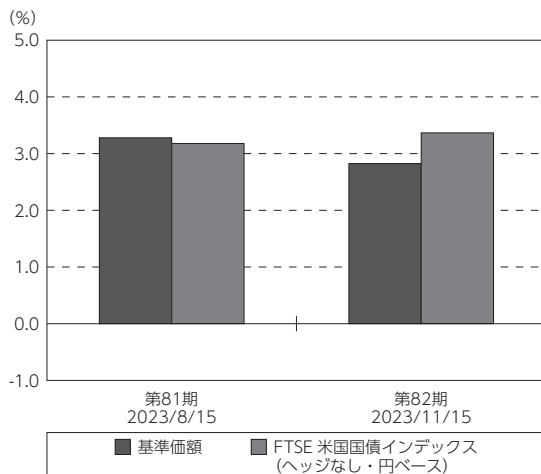
## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2023年5月16日～2023年11月15日)

当作成期の基準価額の騰落率(分配金再投資ベース)は+6.2%となり、一方で同期間のベンチマークの騰落率は+6.7%となりました。

この差には、ファンドとベンチマークにおける債券組入銘柄の違い、債券および為替の評価タイミングのずれや、追加設定・解約による要因等が含まれています。

基準価額とベンチマークの対比 (期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) ベンチマークは、FTSE米国国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)です。詳細は15ページをご参照ください。

## 分配金

(2023年5月16日～2023年11月15日)

収益分配金については、各期とも経費控除後の配当等収益や基準価額水準等を勘案して、第81期、第82期は、1万口当たり45円(税込み)としました。

なお、収益分配に充てなかった部分については、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき運用を行います。

## 分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項目	第81期	第82期
	2023年5月16日～ 2023年8月15日	2023年8月16日～ 2023年11月15日
当期分配金	45	45
(対基準価額比率)	0.420%	0.410%
当期の収益	45	45
当期の収益以外	—	—
翌期繰越分配対象額	3,742	3,762

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

引き続き、当ポートフォリオについては、今後も親投資信託である「しんきん米国ソブリン債マザーファンド」の受益証券への投資を通じ、外貨建資産の組入比率が高位となるように調整していきます。

### ●しんきん米国ソブリン債マザーファンド

米国国債に加えて、国際機関債でポートフォリオを構成し、これらの組入比率を高位に保ち、FTSE米国国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）をベンチマークとしてポートフォリオを構築していきます。

## お知らせ

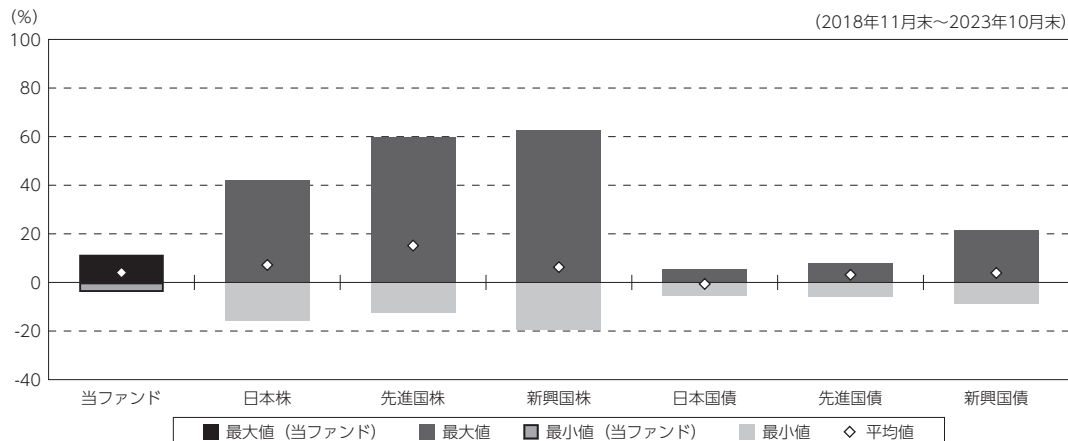
新NISA制度における成長投資枠の対象商品とするため、デリバティブ取引を行う目的について投資信託約款に所要の変更を行いました。(2023年11月11日実施)

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	安定した収益の確保および投資信託財産の着実な成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	米国ソブリン債 ポートフォリオ	「しんきん米国ソブリン債マザーファンド」の受益証券を主要投資対象とします。
	しんきん米国ソブリン債 マザーファンド	米国の国債、政府機関債および国際機関債を主要投資対象とします。
運用方法	米国の国債、政府機関債および国際機関債に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長を目指して運用を行っています。	
分配方針	分配対象額は、経費等控除後の繰越分を含めた利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）等の全額とし、基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合は、分配を行わないこともあります。	

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	11.4	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	21.5
最小値	△ 3.9	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	4.0	7.2	15.2	6.3	△ 0.6	3.1	3.9

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年11月から2023年10月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配再投資基準価額の騰落率です。

## 《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、34ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2023年11月15日現在)

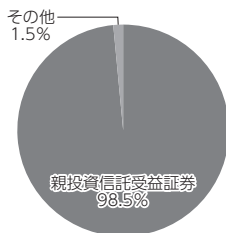
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第82期末
しんきん米国ソブリン債マザーファンド	98.5%
組入銘柄数	1銘柄

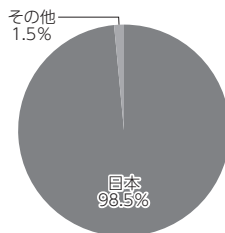
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

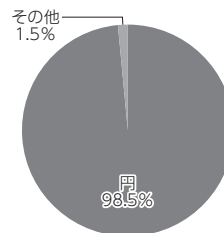
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

(注) その他は、日本円による現金、コール・ローン等を示します。

## 純資産等

項目	第81期末	第82期末
	2023年8月15日	2023年11月15日
純資産総額	323,248,475円	334,789,849円
受益権総口数	303,157,300口	306,623,861口
1万口当たり基準価額	10,663円	10,919円

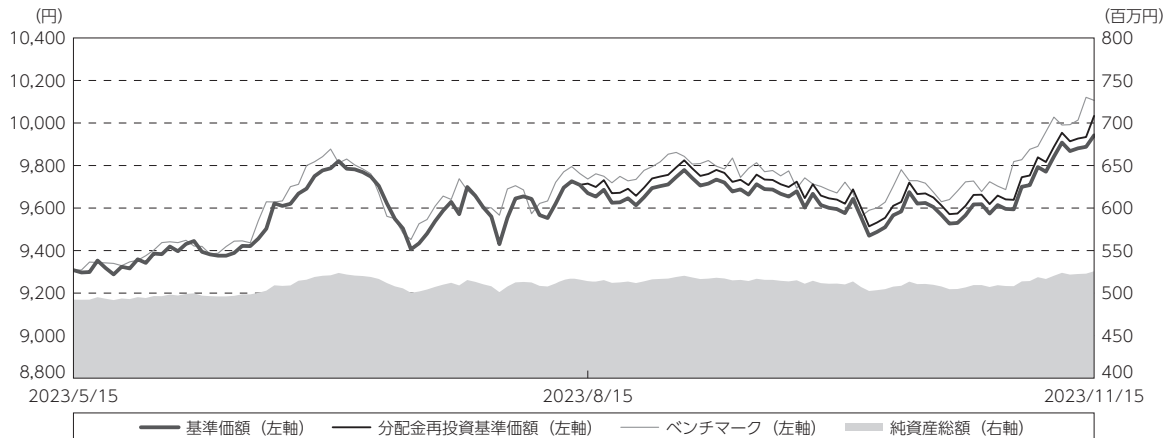
(注) 当作成期間(第81期~第82期)中における追加設定元本額は12,159,158円、同解約元本額は15,300,316円です。

## 欧米ソブリン債ポートフォリオ

## 運用経過

## 作成期間中の基準価額等の推移

(2023年5月16日～2023年11月15日)



第81期首：9,308円

第82期末：9,942円 (既払分配金(税込み)：90円)

騰落率：7.8% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、作成期首(2023年5月15日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。
- (注) ベンチマークは、FTSE EMU 国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)とFTSE米国国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)との合成指数です。詳細は25ページをご参照ください。

## ○基準価額の主な変動要因

当ポートフォリオは、親投資信託である「しんきん欧州ソブリン債マザーファンド」と「しんきん米国ソブリン債マザーファンド」の受益証券へ約50%ずつ投資を行い、ユーロと米ドル建債券の組入比率が高位となるよう運用を行っています。

当作成期における基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

### 基準価額の変動要因

第80期末基準価額		9,308円	
要因	外国債券	キャピタル	△317円
		インカム	118円
	為替	ドル	487円
		ユーロ	490円
	小計	778円	
分配金		△90円	
その他変動要因(信託報酬含む)		△54円	
第82期末基準価額		9,942円	

※要因分析の数値は概算値です。実際の数値と異なる可能性があります。傾向を知るための参考としてご覧ください。

※キャピタルとは金利変動等による債券価格の上下動に伴う売買損益(評価損益含む)、インカムとは利息等による収益です。

## ●しんきん欧州ソブリン債マザーファンド

### <上昇要因>

- ・欧州中央銀行(E C B)がインフレ高進を抑制するために、積極的な金融引締めを進めたことで、日欧金利差の拡大が意識され、ユーロが対円で上昇したこと。

### <下落要因>

- ・欧州のインフレ高進を抑制するため、E C Bが積極的な金融引締めを行ってきたことから、欧州主要国の金利が上昇し、欧州債券価格が下落したこと。

## ●しんきん米国ソブリン債マザーファンド

### <上昇要因>

- ・米連邦準備制度理事会(F R B)が積極的な金融引締めを続け、日米金利差が拡大したことから、米ドルが対円で上昇したこと。

### <下落要因>

- ・F R Bによって積極的な利上げが行われ、長期にわたり高金利を維持するとの観測が市場で強まったことや、米国国債の格下げや増発による需給環境の悪化が懸念されたことなどから、米国債金利が上昇し、米国債券価格が下落したこと。

## 1万口当たりの費用明細

(2023年5月16日～2023年11月15日)

項 目	第81期～第82期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	51	0.525	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	(21)	(0.221)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	(27)	(0.276)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 3)	(0.028)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	2	0.020	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	( 2)	(0.017)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
( 監 査 費 用 )	( 0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( そ の 他 )	( 0)	(0.001)	信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	53	0.545	
作成期間の平均基準価額は、9,617円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等の掛かるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

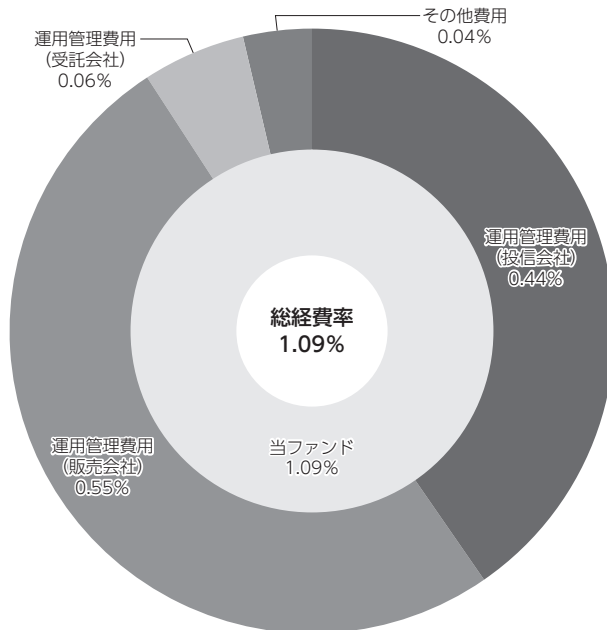
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。



## (参考情報)

## ○総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.09%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

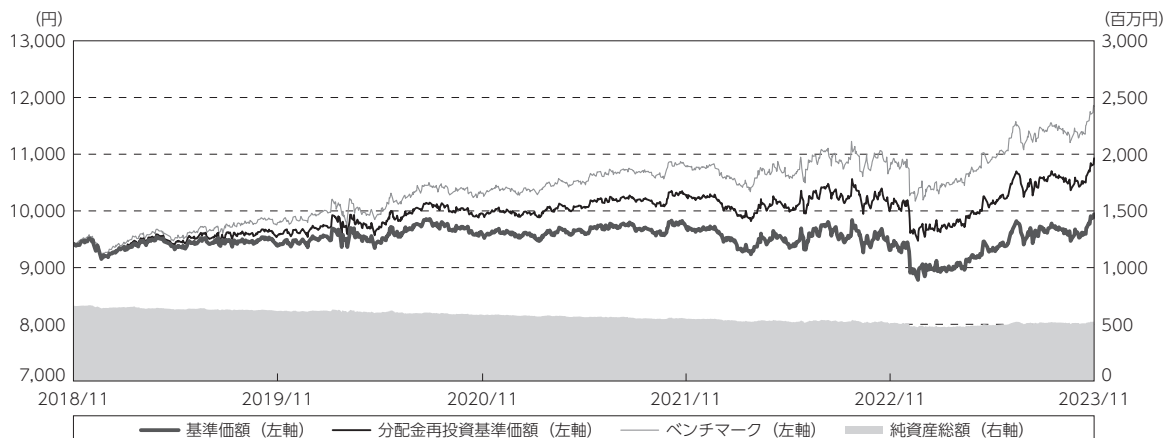
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2018年11月15日～2023年11月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。  
 (注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2018年11月15日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

	2018年11月15日 決算日	2019年11月15日 決算日	2020年11月16日 決算日	2021年11月15日 決算日	2022年11月15日 決算日	2023年11月15日 決算日
基準価額 (円)	9,408	9,383	9,582	9,714	9,307	9,942
期間分配金合計(税込み) (円)	—	180	180	180	180	180
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	1.7	4.1	3.3	△ 2.3	8.9
ベンチマーク騰落率 (%)	—	4.1	5.3	4.5	△ 0.4	10.3
純資産総額 (百万円)	662	616	583	549	506	525

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。  
 (注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しています。  
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。  
 (注) ベンチマークは、FTSE EMU国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)とFTSE米国国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)との合成指数です。

## ●ベンチマークに関して

※ベンチマークはFTSE EMU国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)を50%、FTSE米国国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)を50%の配分比率で算出した合成指数(設定日2003年7月1日を10,000として指数化)です。

FTSE EMU国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)

※「FTSE EMU国債インデックス」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスで、EMU加盟国の国債で構成されています。

※「FTSE EMU国債インデックス」は「FTSE世界国債インデックス」のサブ・インデックスです。

※「FTSE世界国債インデックス」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

※上記指数は、FTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。同社は、当ファンドの運用成績などに関する一切の責任を負いません。

FTSE米国国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）

※「FTSE米国国債インデックス」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスで、米国の国債で構成されています。

※「FTSE米国国債インデックス」は「FTSE世界国債インデックス」のサブ・インデックスです。

※「FTSE世界国債インデックス」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

※上記指数は、FTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。同社は、当ファンドの運用成績などに関する一切の責任を負いません。

## 投資環境

(2023年5月16日～2023年11月15日)

### (欧州債券市況)

当作成期初以降、ECB政策理事会において政策金利の利上げが連続して決定される中、金利は上昇基調で推移しました。ただ、ドイツをはじめとする欧州各国の経済指標が落ち込み、欧州の景況への懸念が強まったことや、中国不動産市場および中国経済に対する警戒が強まったこと、欧米のインフレ鈍化傾向が続いたことなどを背景に、欧州国債金利は揉み合いながら緩やかに上昇する形となりました。一方で、当作成期末にかけては、ユーロ圏の2023年10月の購買担当者景気指数（PMI）の軟調な結果等を背景として、欧州経済の減速が市場で意識されたことを受けて、欧州国債金利は低下しました。

### (米国国債市況)

当作成期初は、米消費者物価指数（CPI）などがインフレ高進の鈍化を示したものの、米国経済の堅調さを示す経済指標が相次いだことや、FRB高官によるタカ派発言が散見されたことから、追加利上げ観測が広がり、米国債金利は上昇しました。その後も米国経済の底堅さを受けた米国債金利の上昇が続く中、2023年8月には米国国債の格下げや増発が公表され、需給の悪化懸念が広がると米国債金利はさらに上昇しました。また、9月と10月においても、FRBが高水準の政策金利を長期間維持するとの見方が市場で広がったことで、米国債金利は上昇基調で推移しました。一方で、11月初めに行われた米連邦公開市場委員会（FOMC）におけるパウエルFRB議長の発言が利上げ終了を示唆するものと市場で受け止められ、当作成期末にかけて米国債金利は低下しました。

### (為替市況：ユーロ円市場)

当作成期初から2023年6月末にかけては、ECBが金融引締めを積極的に進めていたことや、日銀の総裁交代後も日本の金融政策が直ちには変更されないとの理解が市場で広がったことから、大きくユーロ高円安が進行しました。7月以降は、ドイツの経済指標が大きな落ち込みを示したことや、欧州圏のインフレ率の鈍化を背景にECBが利上げペースを緩めるとの観測が広がると、ユーロ円は上値が抑えられる展開となりました。一方で、当作成期末にかけては、ECBのラガルド総裁が当面の利下げを排除する旨の発言を行ったこと等を受けて、再びユーロ高が進みました。

### (為替市況：ドル円市場)

当作成期初から2023年6月末にかけては、米国の金融引締めや、日銀による金融緩和継続の姿勢が意識され、ドル高円安基調で推移しました。しかし、7月に内田日銀副総裁によるインタビュー記事が注

目され、政策修正が意識されると、一時的に円が買われる場面もありました。8月には日銀によって政策変更が行われましたが、さらなる金融引締めタイミングが遠いであろうことが市場で意識されたことや、米国経済の底堅さを背景とした米国債金利の上昇を受けて、8月以降は再び円安基調での推移となりました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2023年5月16日～2023年11月15日)

当ポートフォリオは、親投資信託である「しんきん欧州ソブリン債マザーファンド」と「しんきん米国ソブリン債マザーファンド」の受益証券へ約50%ずつ投資を行い、ユーロと米ドル建債券の組入比率が高位となるように調整しています。

### ●しんきん欧州ソブリン債マザーファンド

欧州のソブリン債の組入比率を高位に保ち、FTSE EMU 国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）をベンチマークとして、ポートフォリオを構築しています。

国別配分については、ドイツ、フランス、スペイン、オランダ、オーストリアおよびベルギーの各国債でポートフォリオを構築しています。当作成期末の2023年11月15日時点におけるファンドの修正デュレーション（金利感応度）は7.12年、時価最終利回りは3.10%となっています。

### ●しんきん米国ソブリン債マザーファンド

米国のソブリン債の組入比率を高位に保ち、FTSE 米回国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）をベンチマークとして、ポートフォリオを構築しています。ベンチマークに対する修正デュレーション（金利感応度）は、中立を基本としています。

当作成期末の2023年11月15日時点におけるファンドの修正デュレーションは5.87年、時価最終利回りは4.80%となっています。また、ファンドの利回り向上を図るため、米回国債のほか、国際復興開発銀行（世界銀行：IBRD）、米州開発銀行（IADB）、アジア開発銀行（ADB）発行の債券を組み入れています。

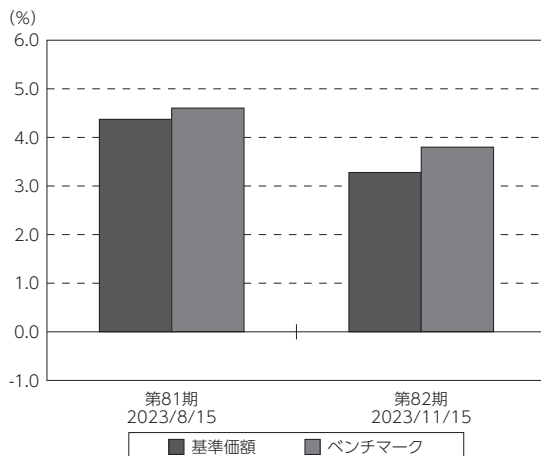
## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2023年5月16日～2023年11月15日)

当作成期の基準価額の騰落率(分配金再投資ベース)は+7.8%となり、一方で同期間のベンチマークの騰落率は+8.6%となりました。

この差には、ファンドとベンチマークにおける債券組入銘柄の違い、債券および為替の評価タイミングのずれや、追加設定・解約による要因等が含まれています。

基準価額とベンチマークの対比 (期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) ベンチマークの詳細は25ページをご参照ください。

## 分配金

(2023年5月16日～2023年11月15日)

収益分配金については、各期とも経費控除後の配当等収益や基準価額水準等を勘案して、第81期、第82期は、1万口当たり45円(税込み)としました。

なお、収益分配に充てなかった部分については、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき運用を行います。

## 分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項目	第81期	第82期
	2023年5月16日～ 2023年8月15日	2023年8月16日～ 2023年11月15日
当期分配金	45	45
(対基準価額比率)	0.463%	0.451%
当期の収益	45	45
当期の収益以外	—	—
翌期繰越分配対象額	1,656	1,667

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

引き続き、運用の基本方針に従い、親投資信託である「しんきん欧州ソブリン債マザーファンド」と「しんきん米国ソブリン債マザーファンド」の受益証券へ約50%ずつ投資を行い、ユーロと米ドル建債券の組入比率が高位となるように調整し運用を行っていきます。

### ●しんきん欧州ソブリン債マザーファンド

欧州のソブリン債の組入比率を高位に保ち、FTSE EMU 国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）をベンチマークとしてポートフォリオを構築していきます。投資国やウェイトについては、マクロ経済分析等のファンダメンタル分析、債券市場分析および格付動向などを勘案して決定します。

### ●しんきん米国ソブリン債マザーファンド

米国国債に加えて、国際機関債でポートフォリオを構成し、これらの組入比率を高位に保ち、FTSE 米国国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）をベンチマークとしてポートフォリオを構築していきます。

## お知らせ

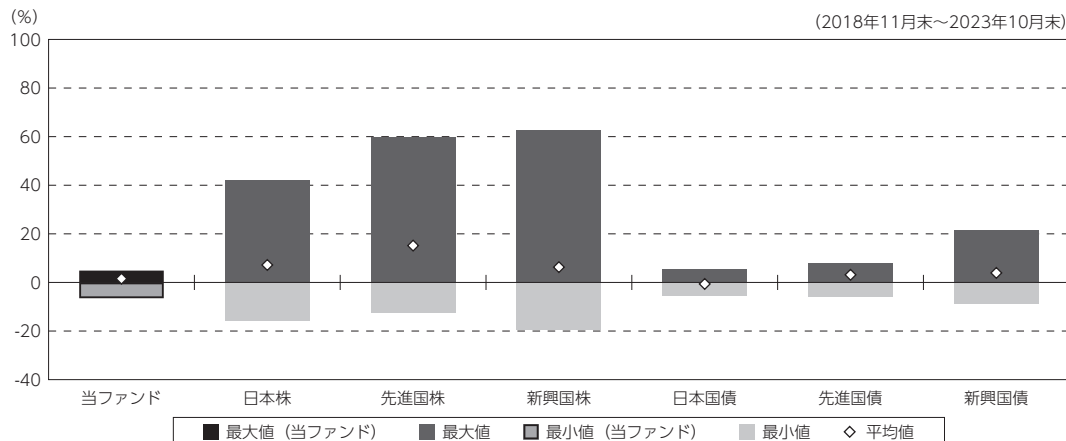
新NISA制度における成長投資枠の対象商品とするため、デリバティブ取引を行う目的について投資信託約款に所要の変更を行いました。(2023年11月11日実施)

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	安定した収益の確保および投資信託財産の着実な成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	欧米ソブリン債ポートフォリオ	「しんきん欧州ソブリン債マザーファンド」および「しんきん米国ソブリン債マザーファンド」の受益証券を主要投資対象とし、各受益証券の基本組入比率は原則50%：50%とします。
	しんきん欧州ソブリン債マザーファンド	EMU（欧州経済通貨同盟）参加国の国債、政府機関債および国際機関債を主要投資対象とします。
	しんきん米国ソブリン債マザーファンド	米国の国債、政府機関債および国際機関債を主要投資対象とします。
運用方法	ユーロ参加国の国債、米国の国債、政府機関債および国際機関債に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長を目指して運用を行っています。	
分配方針	分配対象額は、経費等控除後の繰越分を含めた利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）等の全額とし、基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合は、分配を行わないこともあります。	

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	4.9	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	21.5
最小値	△ 6.5	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	1.6	7.2	15.2	6.3	△ 0.6	3.1	3.9

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年11月から2023年10月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配再投資基準価額の騰落率です。

## 《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、34ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2023年11月15日現在)

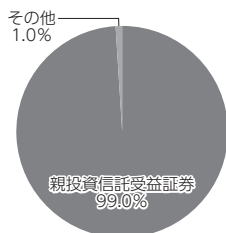
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第82期末
	%
しんきん欧州ソブリン債マザーファンド	50.1
しんきん米国ソブリン債マザーファンド	48.9
組入銘柄数	2銘柄

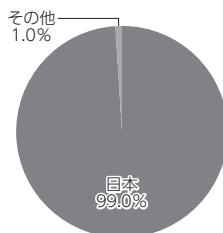
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

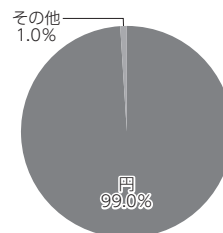
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

(注) その他は、日本円による現金、コール・ローン等を示します。

## 純資産等

項目	第81期末	第82期末
	2023年8月15日	2023年11月15日
純資産総額	513,975,775円	525,683,095円
受益権総口数	531,526,153口	528,772,012口
1万口当たり基準価額	9,670円	9,942円

(注) 当作成期間(第81期~第82期)中における追加設定元本額は7,416,333円、同解約元本額は7,604,926円です。



組入上位ファンドの概要

しんきん欧州ソブリン債マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年2月9日～2023年2月8日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) そ の 他 費 用	7	0.045
( 保 管 費 用 )	(7)	(0.044)
( そ の 他 )	(0)	(0.000)
合 計	7	0.045

期中の平均基準価額は、15,828円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

【組入上位10銘柄】

(2023年2月8日現在)

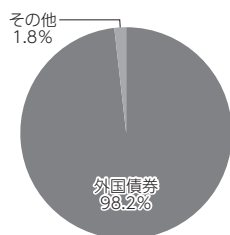
銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 ( 地 域 )	比 率
1 DBR 4.750 07/04/34	国債証券	ユーロ	ドイツ	4.7
2 SPGB 4.200 01/31/37	国債証券	ユーロ	スペイン	3.7
3 FRTR 2.750 10/25/27	国債証券	ユーロ	フランス	3.7
4 DBR 4.750 07/04/28	国債証券	ユーロ	ドイツ	3.6
5 FRTR 3.250 05/25/45	国債証券	ユーロ	フランス	3.4
6 FRTR 4.000 10/25/38	国債証券	ユーロ	フランス	3.3
7 FRTR 1.250 05/25/34	国債証券	ユーロ	フランス	3.3
8 DBR 1.700 08/15/32	国債証券	ユーロ	ドイツ	3.3
9 FRTR 5.750 10/25/32	国債証券	ユーロ	フランス	3.2
10 DBR 4.000 01/04/37	国債証券	ユーロ	ドイツ	3.2
組入銘柄数			46銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

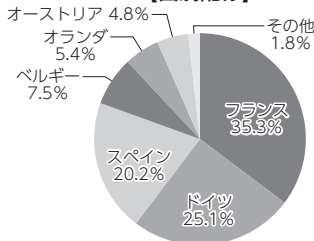
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

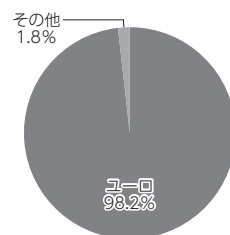
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

しんきん米国ソブリン債マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年2月9日～2023年2月8日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) そ の 他 費 用	5	0.024
( 保 管 費 用 )	(5)	(0.024)
( そ の 他 )	(0)	(0.000)
合 計	5	0.024

期中の平均基準価額は、19,333円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

【組入上位10銘柄】

(2023年2月8日現在)

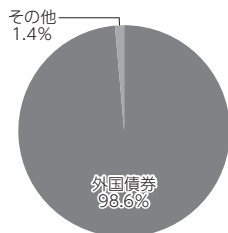
銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国(地域)	比率
1 T-NOTE 2.750 02/15/24	国債証券	米ドル	米国	5.3
2 T-NOTE 2.875 05/31/25	国債証券	米ドル	米国	5.1
3 T-NOTE 2.000 08/15/25	国債証券	米ドル	米国	4.8
4 ASIA 1.875 01/24/30	特殊債券	米ドル	国際機関	4.8
5 T-BOND 3.625 02/15/44	国債証券	米ドル	米国	4.0
6 T-NOTE 2.625 01/31/26	国債証券	米ドル	米国	4.0
7 T-NOTE 2.500 05/15/24	国債証券	米ドル	米国	3.9
8 T-NOTE 2.375 08/15/24	国債証券	米ドル	米国	3.9
9 T-NOTE 1.125 01/15/25	国債証券	米ドル	米国	3.9
10 T-BOND 3.125 02/15/42	国債証券	米ドル	米国	3.8
組入銘柄数	33銘柄			

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

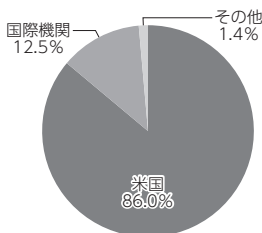
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

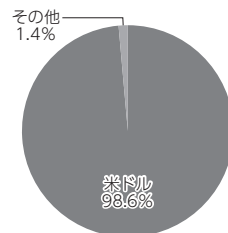
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

### ＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害および一切の問題について、何らの責任も負いません。

#### ○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

#### ○MSCI – KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI – KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

#### ○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

#### ○NOMURA – BPI 国債

NOMURA – BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

#### ○FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

#### ○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。